

将来図を 描く

推進会議が作成をリード

(76)が地域のリーダーを巻き込み、話し合いや目標地図の素案作成を先導してきた。

まず設置したのは、地域計画作成推進会議だ。

メンバーは、地区の中心人物である自治会長や農

会長、上大沢営農部会と

チームの正副会長の8人

を前中会長が指名。会長

も含めた合計9人で意向

把握調査は、推進

会議の9人全員で分担し

農地所有者へアンケート

を配布、回収。アンケート

トには、配布対象者の農

地を筆ごとに一覧にした

リストを添付し、筆ごとの

意向を確認できるように

工夫した。

話し合い重ね修正

推進会議で確認した意

向をもとに、市が意向

別、年齢別、耕作者の有

無で色分けした3種類の

話し合いは、23年9月ま

での期間中12回に及び、

地図の色塗りは市と調整

しながら5度の修正を重ね

た。この修正のやり取り

りに最も苦労した

という。

最終的に、目標

地図の素案は7色

に色分けすることができた。オレン

灰色部分は現在の耕作者

が継続して耕作可能な農

地だ。

耕作可能な者が見つか

らなかった農地は黒色と

いう。

市との調整過程の地図を手にす

る前中会長。何れ所も付箋が貼

られ苦労の跡が見える

し、新規就農者や有機農業希望者などに紹介する農地として位置付けた。

地域計画作成の取り組みを進める過程で、現在

営農組合に耕作してもら

っているものの、定年後

は自分で耕作したいとい

う潜在的な担い手が3、4人見つかるという収穫

があった。「推進会議の

メンバーが協力的だった

のも良かった」と笑顔を

見せた前中会長。話し合

いの場への出席率も高

く、自発的に意見を述べ

ていくつもりだ。

策定後も体制は維持

地域計画は、策定後も

見直しの機会があるた

め、上大沢地区の推進会

議の体制は今後も維持し

ていくつもりだ。

事例編 ⑬

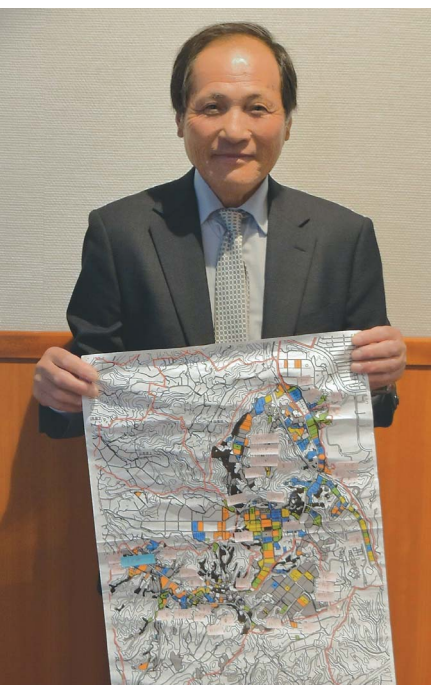
兵庫県神戸市では、モデル地区に設定した2地区の地域計画の策定を、2022年度から先行して進めている。

そのうちの1地区である上大沢集落では、農業委員会の前中悠一会長

兵庫・神戸市農業委員会

から話し合いを始めた。

耕作する農地で、



市との調整過程の地図を手にする前中会長。何れ所も付箋が貼られ苦労の跡が見える